キイトスゲ　*Carex sachalinensis* F.Schmidt var. *fulva* (Ohwi) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地が限られている。

【形　態】

多年生草本。長い匍匐枝があり、小さい株を作る。茎は高さ 20～35cm、基部の葉鞘は淡褐色～淡黄褐色で、後に多少繊維状になる。葉は細い線形、幅 1.2～2.5mm である。果期は 5 月下旬～6 月、小穂は 3～4 個で互いに離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 1～2.5cm、鱗片は黄褐色で中央は緑色となる。側小穂は雌性で長さ 1～2cm、7～12 個の果胞をややまばらにつける。苞は長い鞘があり、葉身は長くても 5cm 程度である。果胞は長さ 2.5～3mm、先端は次第に細くなって短い嘴状になる。雌花の柱頭は 3 個である。

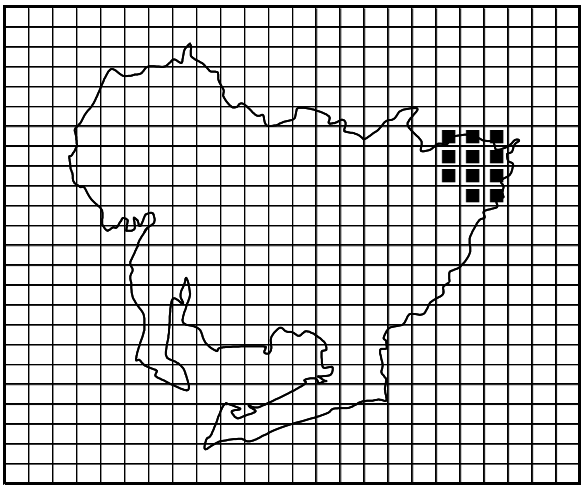
【分布の概要】

【県内の分布】
東：2 豊根（茶臼山，畑佐武司 8404, 2012-6-8）。

【国内の分布】
北海道、本州（中部地方～中国地方）。

【世界の分布】
日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では茶臼山で確認されているだけであるが、そこでは個体数は多い。現在のところ特に減少してはいないが、ニホンジカの食害により衰退する可能性はある。

【保全上の留意点】

食害が顕著になった場合は、防護柵の設置を検討する必要がある。

【特記事項】

丘陵地に生育するチャイトスゲによく似ているが、山地性で、雌鱗片が黄褐色を帯びる。愛知県の山地に多いオオイトスゲ（シロイトスゲ）からは、茎基部の鞘や雄小穂が褐色を帯びることで見分けられる。今まで「チャイトスゲに似ているが、他産地とは相当離れているのでどうもおかしい」と思っていた植物で、勝山氏の同定に従い、本変種にあてておく。

【関連文献】

保草Ⅲp.271, 平新版 1 p.319.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.218. 文一総合出版, 東京.